

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

— 平成 1 2 年 4 月 調査結果 —

(平成 1 2 年 5 月 2 日)

○調査期間：平成 1 2 年 4 月 1 9 日～2 5 日

○調査対象：全国の 3 9 5 商工会議所が 2 6 5 5 業種組合等にヒアリング
(内訳) 建設業 3 9 2 製造業 6 4 7 卸売業 2 4 4
小売業 7 6 1 サービス業 6 1 1

○調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況 (D I 値を集計)
及び、業界として当面する問題等

※ D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算：(好転) - (悪化) 売上：(増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 4 4 ・ 7 8 3 6
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は、日商ホームページ (<http://www.jcci.or.jp>)でもご覧になれます。

【平成12年4月調査結果のポイント】

業況D1のマイナス幅0.4ポイント縮小。厳しさの中に一部回復の兆しも

- 4月の景況をみると、全産業合計の業況D1（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（▲35.6）よりマイナス幅が0.4ポイント縮小して▲35.2となった。マイナス水準での推移は平成3年4月から109ヶ月、また平成3年9月から104ヶ月連続してマイナス2桁水準となっている。昨年4月以来D1値の水準は▲40ポイント台で一進一退の動きを続けてきた後、3月に大幅なマイナス幅の縮小（7.2ポイント）が見られたが、4月はさらに若干の縮小となった。各業種では消費や設備投資の動向に依然停滞基調が続き、厳しい業況を訴える声は引き続き多いものの、業況の好転や先行きへの期待感を指摘する声も増加しており、足元の景気は引き続き低迷を続ける中に、一部回復の兆しも見られる。

建設業では、「新年度のため公共事業発注の端境期で受注がない」との声のほか、「公共・民間とも工事受注高が減少」、「受注競争が厳しく採算面が悪化」、「設計単価の下落により業況が悪化」など採算面の厳しさも多く指摘されている。しかし、一部には「個人住宅、営繕で受注が増え、やや上向き傾向」といった声や、公共工事について「年度初めから公共工事の受注が出始めるようになり、それなりに手持ち工事がある」といった声も寄せられている。製造業では、「住宅着工件数が堅調に推移している中、個々の消費者のニーズに対応した商品の需要は旺盛」（家具）、「軽自動車は依然として堅調に推移、普通自動車関連は仕事が出てきた感じ」（自動車付属品）、「東南アジア及びヨーロッパ方面の輸出好調」（金物類）など生産量増加の声がある一方、「海外から安価な商品が入ってくることにより、近年売上減少」（なめし革製品）、「短期の仕事はあるが、安定した受注がない。加工単価の値引きを要求され厳しい」（暖房装置・配管）など、価格競争による採算面の厳しさについての指摘も寄せられている。卸売業では、「個人消費が回復しない限り卸売業も回復が望めない」（衣服・日用品）や「売上の低下と収益の悪化が続いており、当面、回復は見込めない状況。消費の低迷と価格競争の激化が主要因」（食料・飲料）など厳しい業況を訴える声が多いものの、「昨年度と比較すると売上高・採算面ともに伸びている」（総合卸）、との声もある。小売業では、昨年実施した地域振興券の反動減や、客数の減少・客単価の下落といった消費低迷の指摘が多く寄せられており、先行きについても「所得・雇用環境の改善が進まないと回復は難しい」（大型店）との見方が寄せられている。その一方で「旧デパートの空店舗に電化製品量販店と百元ショップが入店し、商店街の集客力が2ケタで増加している」（商店街）といった声も寄せられている。サービス業では、「客単価の下落により、依然として明るい材料が見られない」（飲食）といった指摘がある一方、「年度替わりの人事異動に係る各種会合が好調」（飲食）、「徹底したコストダウンの効果で、売上は例年並だが収益は増加傾向」（ソフトウェア）、「全体的に好転しつつある」（理容）、「携帯電話関連事業所の派遣需要が急増し、売上を押し上げている」（人材派遣）などの声も寄せられている。

売上面では、建設業・卸売業・小売業で前月水準に比べてマイナス幅が拡大したことにより、全業種合計の売上D1はマイナス幅が1.0ポイント拡大して▲33.9となった。採算面では、製造業・サービス業で前月水準に比べてマイナス幅が縮小したことから、全業種合計の採算D1はマイナス幅が0.3ポイント縮小して▲37.1となった。

- 向こう3ヶ月（5月～7月）の先行き見通しは、全産業合計の業況D1（今月比ベース）が▲27.2と、現状より好転するとの見方となっている。
- 景気に関する声、当面する問題としては、新年度の公共工事、個人消費、原材料・

仕入単価の動向についての関心が高い。

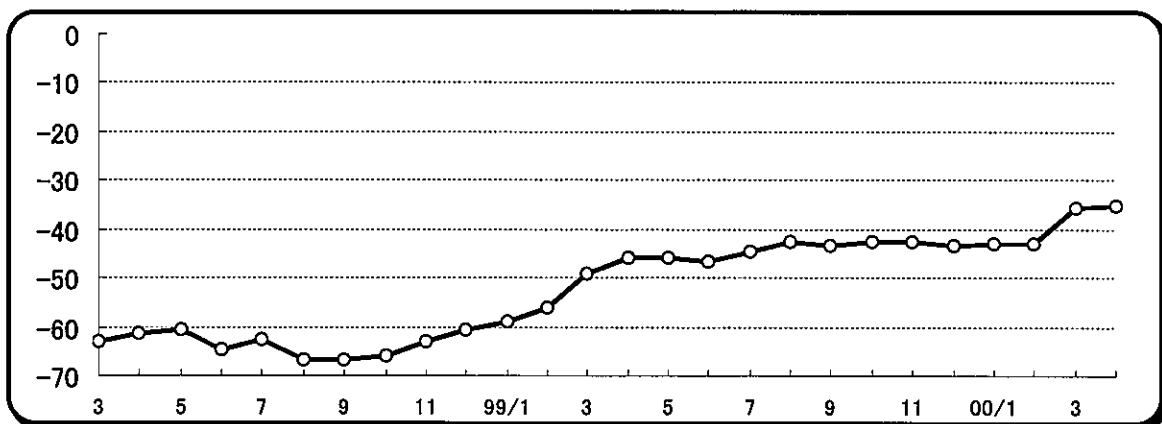
【業況についての判断】

- 全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（▲35.6）よりマイナス幅が0.4ポイント縮小して▲35.2となった。マイナス水準での推移は平成3年4月から109ヶ月、また平成3年9月から104ヶ月連続してマイナス2桁水準となっている。昨年4月以来D I値の水準は▲40ポイント台で一進一退の動きを続けてきた後、3月に大幅なマイナス幅の縮小（7.2ポイント）が見られたが、4月はさらに若干の縮小となった。
- 向こう3ヶ月（5月～7月）の先行き見通しは、全産業合計の業況D I（今月比ベース）が▲27.2と、現状より好転するとの見方となっている。

業況D I（前年同月比）の推移

	11年		12年				先行き見通し 5～7月
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	
全産業	▲ 42.7	▲ 43.4	▲ 43.1	▲ 42.8	▲ 35.6	▲ 35.2	▲ 27.2 (▲ 32.1)
建設	▲ 43.5	▲ 43.1	▲ 43.9	▲ 42.9	▲ 38.7	▲ 45.7	▲ 41.6 (▲ 31.7)
製造	▲ 37.3	▲ 34.6	▲ 33.2	▲ 32.1	▲ 26.6	▲ 24.2	▲ 19.5 (▲ 33.5)
卸売	▲ 42.8	▲ 39.8	▲ 36.5	▲ 45.0	▲ 40.0	▲ 36.7	▲ 27.3 (▲ 20.3)
小売	▲ 50.0	▲ 53.7	▲ 52.2	▲ 51.6	▲ 41.4	▲ 45.5	▲ 32.6 (▲ 35.7)
サービス	▲ 38.7	▲ 41.8	▲ 44.7	▲ 42.9	▲ 34.4	▲ 27.0	▲ 19.2 (▲ 31.4)

※「先行き見通し」は当月に比べた向こう3ヶ月の先行き見通しD I
（ ）内は昨年4月の先行き見通しD I <以下同じ>



≪業況D I（全産業・前年同月比）の推移≫

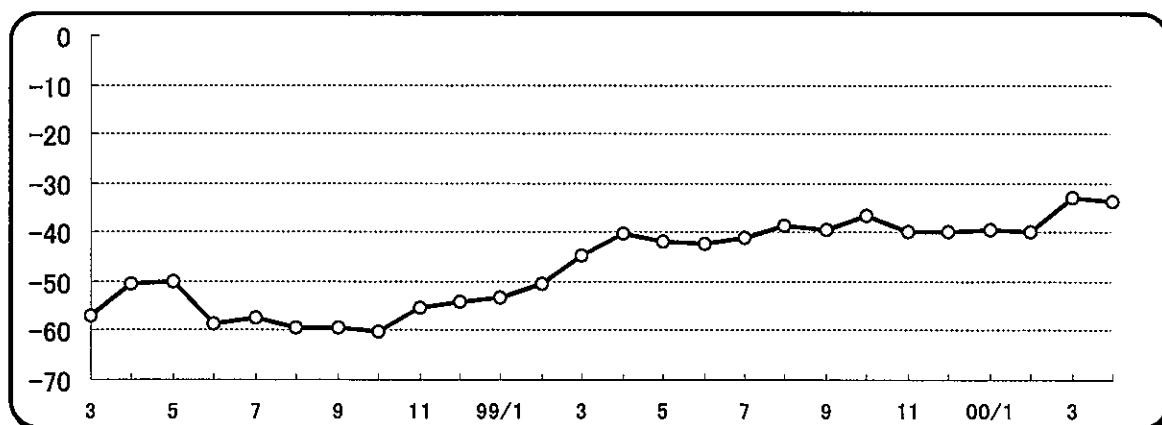
【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

- 売上面では、建設業・卸売業・小売業で前月水準に比べてマイナス幅が拡大したことにより、全業種合計の売上D Iはマイナス幅が1.0ポイント拡大して▲33.9となった。
- 向こう3ヶ月（5月～7月）の先行き見通しは、全産業合計の売上D I（今月ベース）が▲24.2と、現状より好転するとの見方となっている。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	11年		1月	12年			先行き見通し 5～7月
	11月	12月		2月	3月	4月	
全産業	▲ 39.8	▲ 40.0	▲ 39.4	▲ 39.9	▲ 32.9	▲ 33.9	▲ 24.2 (▲ 28.5)
建設	▲ 36.2	▲ 38.5	▲ 36.0	▲ 34.6	▲ 30.5	▲ 38.4	▲ 32.3 (▲ 31.4)
製造	▲ 31.9	▲ 29.5	▲ 31.5	▲ 30.8	▲ 24.4	▲ 20.5	▲ 18.4 (▲ 31.3)
卸売	▲ 41.6	▲ 34.9	▲ 37.1	▲ 45.9	▲ 36.5	▲ 41.0	▲ 24.5 (▲ 11.3)
小売	▲ 51.1	▲ 52.6	▲ 47.7	▲ 46.9	▲ 41.7	▲ 47.5	▲ 32.2 (▲ 32.3)
サービス	▲ 35.8	▲ 38.8	▲ 40.6	▲ 42.4	▲ 31.4	▲ 25.7	▲ 15.3 (▲ 26.2)

＜売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移＞



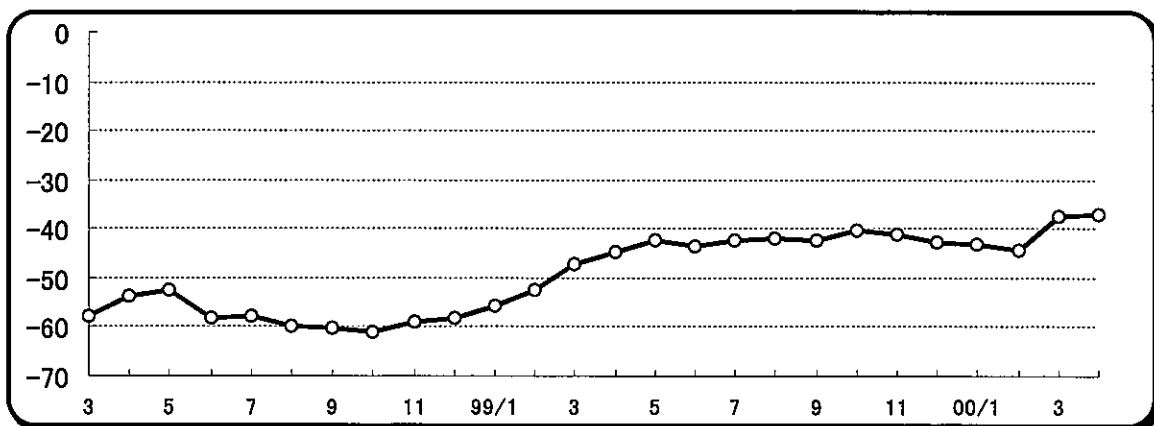
【採算の状況についての判断】

- 採算面では、製造業・サービス業で前月水準に比べてマイナス幅が縮小したことから、全業種合計の採算D Iはマイナス幅が0.3ポイント縮小して▲37.1となった。
- 向こう3ヶ月(5月～7月)の先行き見通しは、全産業合計の業況D I(今月ベース)が▲28.9と、現状より好転するとの見方となっている。

採算D I (前年同月比) の推移

	11年 11月	12月	12年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5～7月
全産業	▲ 41.1	▲ 42.8	▲ 43.0	▲ 44.4	▲ 37.4	▲ 37.1	▲ 28.9 (▲ 32.7)
建設	▲ 42.6	▲ 42.9	▲ 47.0	▲ 47.3	▲ 43.9	▲ 46.6	▲ 43.1 (▲ 37.8)
製造	▲ 41.0	▲ 36.6	▲ 35.8	▲ 40.3	▲ 32.6	▲ 28.6	▲ 26.0 (▲ 38.0)
卸売	▲ 40.0	▲ 42.4	▲ 39.5	▲ 40.6	▲ 41.4	▲ 41.7	▲ 27.3 (▲ 20.5)
小売	▲ 44.5	▲ 50.3	▲ 48.6	▲ 48.4	▲ 38.9	▲ 42.6	▲ 31.1 (▲ 32.0)
サービス	▲ 36.6	▲ 40.0	▲ 42.5	▲ 43.6	▲ 34.7	▲ 31.5	▲ 20.5 (▲ 29.5)

《採算D I (全産業・前年同月比) の推移》



(参考)

仕入単価D I（前年同月比）の推移

	11年 11月	12月	12年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5~7月
全産業	▲ 1.4	▲ 1.1	0.9	▲ 1.1	▲ 2.0	▲ 0.9	▲ 3.0 (▲ 2.5)
建設	1.9	1.8	▲ 1.0	0.4	▲ 2.5	1.7	0.0 (1.1)
製造	▲ 7.6	▲ 4.9	▲ 5.2	▲ 7.7	▲ 8.3	▲ 7.6	▲ 13.4 (▲ 6.9)
卸売	10.8	1.2	16.3	8.7	12.4	7.9	7.9 (1.1)
小売	1.7	4.7	5.1	2.1	2.0	4.0	3.3 (▲ 0.4)
サービス	▲ 5.9	▲ 7.1	▲ 2.8	▲ 2.7	▲ 5.8	▲ 4.7	▲ 5.9 (▲ 4.0)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】卸売業以外の全業種で上昇超感弱まる。

【先行き見通しD I】卸売業以外の全業種で上昇超感強まる見通し。

従業員D I（前年同月比）の推移

	11年 11月	12月	12年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5~7月
全産業	▲ 13.9	▲ 15.1	▲ 14.6	▲ 16.0	▲ 13.2	▲ 14.8	▲ 11.7 (▲ 11.0)
建設	▲ 19.2	▲ 25.8	▲ 22.2	▲ 24.6	▲ 20.9	▲ 27.2	▲ 21.6 (▲ 18.5)
製造	▲ 21.2	▲ 19.6	▲ 16.9	▲ 19.5	▲ 14.2	▲ 15.6	▲ 13.3 (▲ 20.8)
卸売	▲ 11.4	▲ 9.6	▲ 13.5	▲ 14.5	▲ 17.6	▲ 20.9	▲ 14.5 (▲ 5.3)
小売	▲ 9.9	▲ 10.5	▲ 12.6	▲ 12.6	▲ 10.4	▲ 12.3	▲ 8.4 (▲ 6.8)
サービス	▲ 8.4	▲ 10.8	▲ 9.6	▲ 10.9	▲ 8.2	▲ 6.4	▲ 6.7 (▲ 5.9)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比D I】サービス業以外の全業種で過剰超感強まる。

【先行き見通しD I】サービス業以外の全業種で過剰超感弱まる見通し。

【平成12年4月の景気キーワード】

○ 先行き期待

業況の低迷や先行きの不透明感を訴える声は引き続き多いが、業況の底打ち感や先行きへの期待の声も寄せられている。建設業では、「新年度のため公共事業発注の端境期で受注がない」（新井・長野・古河・各務原・姫路）との声があり、公共工事の早期発注に対する期待が多く寄せられている。その一方で、「個人住宅、営繕で受注が増え、やや上向き傾向」（各務原）といった声も寄せられている。製造業では、「住宅着工件数が堅調に推移している中、個々の消費者のニーズに対応した商品の需要は旺盛」（静岡・家具）、「軽自動車は依然として堅調に推移、普通自動車関連は仕事が出てきた感じ」（豊橋・自動車付属品）、「東南アジア及びヨーロッパ方面の輸出好調」（三条・金物類）、「引き合い件数が増加傾向」（諫早・金属加工機械）など生産量増加の声が寄せられている。また、卸売業では、「昨年度と比較すると売上高・採算面ともに伸びている」（所沢・総合卸）との声が、小売業では、「旧デパートの空店舗に電化製品量販店と百元ショップが入店し、商店街の集客力が2ケタで増加している」（和歌山・商店街）、「春に向けての店舗リニューアルが功を奏し、売上が若干好転」（帯広・商店街）といった声も寄せられている。サービス業では、「徹底したコストダウンの効果で、売上は例年並だが収益は増加傾向」（名古屋・ソフトウェア）、「携帯電話関連事業所の派遣需要が急増し、売上を押し上げている」（長野・人材派遣）、「ゴールデンウィークの予約は上々で期待感は十分。これからのシーズンで今までの遅れを取り戻したい」（館山・旅館）などの声も寄せられている。

○ 競争激化

建設業からは、「建築関係は公共工事の発注が少なく、民間工事の受注にしのぎを削っている」（小浜）、「水道指定店制度の規制緩和によって厚生省の資格を得れば全国どこでも仕事ができるようになったことから、同業者間による受注競争が激化」（むさし府中・管工事）、「見積書の作成依頼は増えたが、競争激化から単価を下げざるを得ない」（古河・電気工事）といった声も寄せられている。また、製造業からは、海外からの安価な製品との価格競争等によって売上減との声のほか、「モーターの価格下落による競争激化で勝ち組と負け組の二極分化が見られる」（小浜・木製品）などの指摘も見られる。さらに、卸売業・小売業・サービス業についても、「大型店との価格競争により厳しい状況が続いている」（境港・商店街）、「大型店の出店が多く、大型店同士で限られた顧客シェアを争っているようだ」（浦安・各種商品小売）、「近隣に100円ショップが出店し、ロープライス商品の売上が激減」（平田・各種商品小売）、「価格競争の激化により価格のダンピングを起こしている」（熊本・建物サービス）など、顧客獲得競争の激化による採算面への影響を懸念する声も寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード			
12年	2月	消費の低迷	採算の悪化	先行き不透明感
	3月	先行き期待	採算面の厳しさ	
	4月	先行き期待	競争激化	

※景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。

(参考)

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況・売上・採算D1とも前月までのマイナス幅縮小から反転し、いずれも前月水準に比べてマイナス幅が拡大している。「新年度のため公共事業発注の端境期で受注がない」との声のほか、「公共・民間とも工事受注高が減少」、「受注競争が厳しく採算面が悪化」、「設計単価の下落により業況が悪化」など採算面の厳しさも多く指摘されている。その一方「個人住宅、営繕で受注が増え、やや上向き傾向」といった声や、公共工事について「年度初めから公共工事の受注が出始めるようになり、それなりに手持ち工事がある」といった声も寄せられている。
製 造	業況・売上・採算D1とも前月水準に比べてマイナス幅が縮小している。「住宅着工件数が堅調に推移している中、個々の消費者のニーズに対応した商品の需要は旺盛」(家具)、「軽自動車は依然として堅調に推移、普通自動車関連は仕事が出てきた感じ」(自動車付属品)、「東南アジア及びヨーロッパ方面の輸出好調」(金物類)など生産量増加の声が寄せられている。一方で、「海外から安価な商品が入ってくることにより、近年売上減少」(なめし革製品)、「短期の仕事はあるが、安定した受注がない。加工単価の値引きを要求され厳しい」(暖房装置・配管)、「紙の単価が上昇」(印刷)といった、価格競争による低単価化や原材料値上げなどの採算面での不安要因を指摘する声も多い。
卸 売	売上・採算D1とも前月水準に比べマイナス幅が拡大したものの、業況D1はマイナス幅が縮小している。「個人消費が回復しない限り卸売業も回復が望めない」(衣服・日用品)や「売上の低下と収益の悪化が続いており、当面、回復は見込めない状況。消費の低迷と価格競争の激化が主要因」(食料・飲料)など厳しい業況を訴える声が多いものの、「昨年度と比較すると売上高・採算面ともに伸びている」(総合卸)との声も寄せられている。
小 売	業況・売上・採算D1とも前月までのマイナス幅縮小から反転し、いずれも前月水準に比べてマイナス幅が拡大している。昨年実施した地域振興券の反動減や、客数の減少・客単価の下落といった消費低迷の指摘が多く寄せられており、先行きについても「所得・雇用環境の改善が進まないと回復は難しい」(大型店)との見方が寄せられている。その一方で「旧デパートの空店舗に電化製品量販店と百元ショップが入店し、商店街の集客力が2ケタで増加している」(商店街)、「春に向けての店舗リニューアルが功を奏し、売上が若干好転」(商店街)といった声も寄せられている。
サービス	業況・売上・採算D1とも前月水準に比べてマイナス幅が縮小している。「客単価の下落により、依然として明るい材料が見られない」(飲食)といった厳しい指摘もあるが、「年度替わりの人事異動に係る各種会合が好調」(飲食)、「徹底したコストダウンの効果で、売上は例年並だが収益は増加傾向」(ソフトウェア)、「全体的に好転しつつある」(理容)、「携帯電話関連事業所の派遣需要が急増し、売上を押し上げていく」(人材派遣)などの声も寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

- ブロック別の業況DI（前年同月比ベース）をみると、全産業合計では、全ブロックとも引き続きマイナス水準での推移となっている。ブロック別では、北海道・東北・近畿で前月水準を下回り、他のブロックで前月水準を上回った。
- ブロック別の向こう3ヶ月（5月～7月）の業況の先行き見通しは、全産業合計では、引き続きマイナス水準。中国以外の全ブロックで現状より上向くとの見方になっている。

ブロック別・全産業業況DI（前年同月比）の推移

	11年	12年	12年	2月	3月	4月	先行き見通し 5～7月
	11月						
全 国	▲ 42.7	▲ 43.4	▲ 43.1	▲ 42.8	▲ 35.6	▲ 35.2	▲ 27.2 (▲ 32.1)
北海道	▲ 27.3	▲ 23.6	▲ 41.0	▲ 28.2	▲ 27.5	▲ 36.8	▲ 34.0 (▲ 20.4)
東 北	▲ 36.9	▲ 44.3	▲ 38.0	▲ 35.2	▲ 24.2	▲ 35.5	▲ 28.7 (▲ 32.9)
北陸信越	▲ 33.0	▲ 32.4	▲ 42.7	▲ 35.6	▲ 31.7	▲ 29.9	▲ 22.0 (▲ 22.3)
関 東	▲ 44.8	▲ 47.2	▲ 41.3	▲ 43.2	▲ 37.6	▲ 33.4	▲ 20.9 (▲ 31.7)
東 海	▲ 49.7	▲ 54.5	▲ 48.0	▲ 44.2	▲ 43.3	▲ 36.8	▲ 33.8 (▲ 39.9)
近 畿	▲ 55.7	▲ 51.6	▲ 50.8	▲ 55.4	▲ 42.3	▲ 48.9	▲ 35.1 (▲ 38.9)
中 国	▲ 47.9	▲ 43.0	▲ 48.3	▲ 46.7	▲ 39.8	▲ 33.6	▲ 33.9 (▲ 38.8)
四 国	▲ 51.3	▲ 48.7	▲ 44.1	▲ 60.0	▲ 44.4	▲ 42.1	▲ 31.6 (▲ 37.5)
九 州	▲ 32.0	▲ 35.7	▲ 34.7	▲ 33.7	▲ 24.8	▲ 21.8	▲ 18.2 (▲ 24.6)